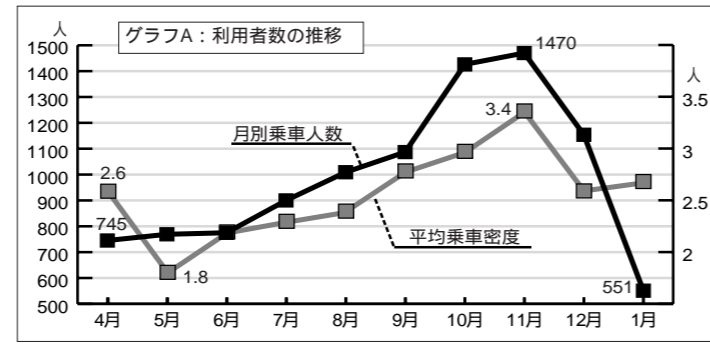
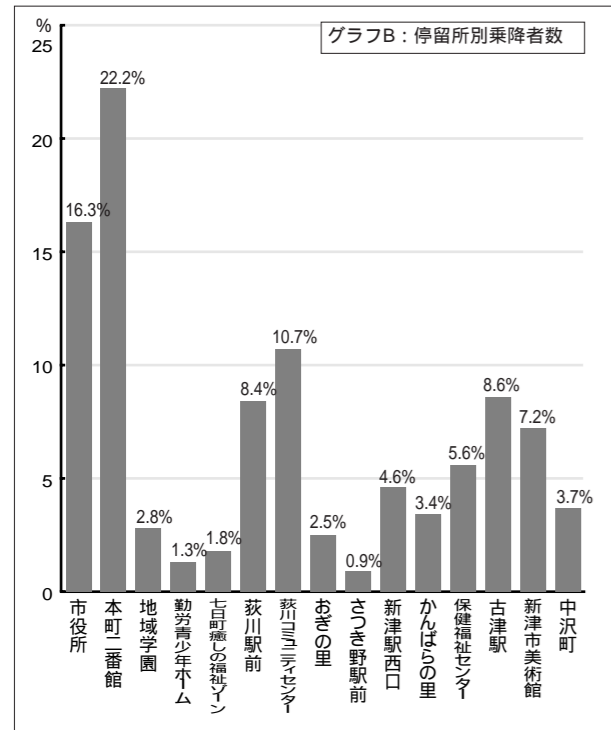


市役所 24-2111 (代表)



●利用者数の推移
四月の七百四十五人から十一月の千四百七十人まで約二倍に増加しましたが、十二月からは減少しましたが、一月は便数が半分になったこともあり、急激に落ち込んでいます(グラフA)。一便の全区間を通して平均何人乗車しているかを表わす平均乗車密度は、十一月が最高の三・四人で、平均では二・六人です。

●停留所別乗降者数
停留所別の乗降者数は、本町二番館と市役所で三八・五割、荻川コミュニティセンターと荻



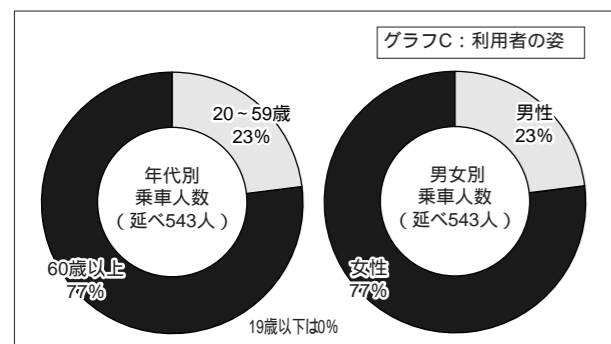
**3月31日
で終了**

ボランティア支援バス(仮称)試験運行の結果について

市では、市内に点在する福祉施設および文化施設を結び、ボランティアをはじめ、市民の活動全体を活発にする交通手段を見つめることを目的に、ボランティア支援バス(仮称)を試験的に運行し、昨年四月から利用者層や利用状況などを調査してきました。今号では、今年1月末までの試験運行の結果をお知らせします。

ボランティア支援バス(仮称)試験運行の概要

期間...平成13年4月5日～平成14年3月31日。ただし、年末年始(12月30日～1月5日)は運休。
 区間 市役所発～市内循環～市役所着(循環する間の経由地は、下図のとおり)。ただし、さつき野駅前と新津駅西口は10月1日から。
 便数...運行便数は、1日4便。ただし、1月と2月は1日2便
 延べ利用者数...平成13年4月から平成14年1月末日まで延べ9,886人



●利用者の姿
利用状況をさらに詳しく調べるために、平成十三年十月一日(月)～十四日(日)までの二週間、利用実態調査を行いました。調査人数は、延べ五百四十三人、実数は百九十六人でした。期間中に平均約三回、繰り返し乗車したことになります。

●60歳以上の女性の通院・見舞いが多い
川駅で一九・一割、古津駅と美術館が一五・八割で、全体の約七割を占めています(グラフB)。福祉施設としては、七日町の癒しの福祉ゾーンが一・八割、おぎの里が一・五割、かんばらの里が三・四割で、合計七・七割となっています。

●利用者像
グラフCから、利用者の多くが、六十歳以上の女性であることが分かります。

●利用目的
グラフDから、高齢者が通院や見舞い、保健福祉センターなどの施設の利用、買い物などに利用していることがうかがえます。観光・娯楽が多いのは、調査期間が秋の行楽シーズンと重なったためと思われる。

●利用料金
試験運行期間中は無料でしたが、有料運行となった場合に利用料金がいくらだったら適当と思うかという問いには、約半数の人が百円以下、約三分の二の人が百円超二百円以下が適当な料金と答えました(グラフE)。

